

# 視 察 報 告 書

報告者氏名：ひろなか信太郎

委員会名：民生常任委員会

期 間：令和5年11月8日(水)～令和5年11月10日(金)

視察都市等：大阪府高槻市  
香川県高松市  
福岡県福岡市

視察都市等及び視察項目：

高槻市 がん検診受診率向上について

高松市 高齢者居場所づくり事業について

国の重層的支援体制整備事業を活用した事例及び、支援ニーズに対応する包括的な支援体制づくりについて

福岡市 児童虐待未然防止への体制づくりについて

所 感 等：

## ■大阪府高槻市

### 「がん検診受診率向上について」

民生常任委員会の一環として大阪府高槻市を訪れ、がん検診受診率向上の取組について視察を行いました。この視察を通じて、地域社会における健康への取組や課題について深く理解するとともに、本市の政策に生かすべく学びを得ました。

がんは現代社会において深刻な健康課題の一つであり、早期発見と適切な治療が重要です。そのため、検診受診率の向上は地域社会全体の健康向上に直結しています。高槻市がどのようにがん検診の受診率向上に取り組んでいるか、その成功要因や課題点について調査しました。

## ○視察のポイントと調査項目

### 1. プログラムの展開と啓発活動

高槻市がどのようにがん検診プログラムを展開し、住民への啓発活動を行っているかを調査しました。特に成功している啓発手法やコミュニケーション戦略に焦点を当てました。

## 2. アクセス可能性とバリアフリー

高槻市のがん検診施設へのアクセス可能性や、高齢者や障がい者に対するバリアフリーなサポートがどの程度整備されているかについて検証しました。

## 3. 地域協働とネットワーク

地域の行政、医療機関、地域住民がどのように連携し、がん検診受診率向上に取り組んでいるかを調査しました。地域協働が実現するための成功事例や課題を洗い出しました。

### ○所感と学び

高槻市の取組を視察する中で、いくつかの重要なポイントが明らかになりました。まず第一に、地域住民へのアプローチが多岐にわたり、市民が抱える様々なニーズに応える工夫がなされている点が挙げられます。効果的な啓発活動は、地域の特性を理解し、メッセージが市民に適切に届くよう工夫されていることが印象的でした。

また、がん検診施設へのアクセスが容易であり、高齢者や障がい者に対するバリアフリーなサポートが整備されていることも良かったです。これは、検診の敷居を下げ、多くの市民が利用しやすい環境づくりの一環として評価されるべきです。

一方で、地域協働においては、連携が進んでいる一方で、調整が難しい課題も浮かび上がりました。異なるステークホルダーが協力する中で生じる課題や、情報共有の改善が求められると感じました。



## ○まとめ

視察を通じて、高槻市のがん検診受診率向上に向けた取組には多くの示唆がありました。これらの成功事例や課題点を本市において生かし、我が市のがん検診プログラムの向上につなげていくことが、私たち市議会の大きな課題であると感じています。引き続き、地域の皆様と協力し、より良い健康社会の実現に向けて努力してまいります。



## ■香川県高松市

### ①「高齢者居場所づくり事業について」

香川県高松市を訪れ、高齢者居場所づくり事業について視察を行いました。この視察を通じて、高齢者支援における優れた取組や課題について理解を深め、本市における同様のプログラムの発展に向けた示唆を得ました。

#### ○背景

高齢者の増加が進む中、高齢者居場所は地域社会において重要な存在となっています。高齢者が生き生きと過ごせる場を提供し、地域社会全体での交流を促進することは、社会的な包摂と高齢者の生活の質向上に寄与します。香川県高松市がどのように高齢者居場所を整備し、地域の結びつきを強化しているかを調査しました。

#### ○視察のポイントと調査項目

##### 1. 高齢者居場所の設備とプログラム

高松市の高齢者居場所がどのような設備やプログラムを提供しているかについて詳細な調査を行いました。特に、地域住民との協働で開催されるイベントや活動がどのように高齢者の社会参加を促進しているかに焦点を当てました。

## 2. 地域住民との連携とネットワーキング

地元の住民、ボランティア、地域組織といったステークホルダーとの連携がどのように形成され、高齢者居場所の活性化にどれだけ寄与しているかを調査しました。

## 3. アクセシビリティと交通インフラ

高齢者が高齢者居場所へアクセスする際の利便性や、地域の交通インフラがどのように配慮されているかについて検証しました。

### ○所感と学び

高松市の高齢者居場所づくり事業を視察し、いくつかの重要なポイントが浮かび上がりました。まず、高齢者居場所の多様なプログラムが、高齢者の健康促進や交流の場として効果的であると感じました。地域住民との協働による企画や、地元の特産品や文化を活かしたイベントが、高齢者居場所を地域全体で愛される場にしていました。

また、地域住民との連携が密接であり、高齢者居場所の活性化に大いに寄与していることが印象的でした。地域の声を取り入れ、住民参加型の取組が、プログラムの質を向上させているように感じられました。

一方で、アクセシビリティや交通インフラの整備においては、改善の余地があると感じました。高齢者が居場所にアクセスしやすい環境づくりや、公共交通機関の利便性向上が、今後の課題となるでしょう。

### ○まとめ

視察を通じて、高松市の高齢者居場所づくり事業には多くの示唆がありました。これらの成功事例や課題点を本市において生かし、高齢者の生活支援と地域社会の結びつきを一層強化していくことが、私たち市議会の大きな課題であると確信しています。引き続き、市民と協力し、より良い高齢者支援策の実現に向けて努力してまいります。

## ② 「国の重層的支援体制整備事業を活用した事例及び、支援ニーズに対応する包括的な支援体制づくりについて」

国の支援事業を活用した支援体制整備に焦点を当てました。この視察を通じ、高松市がどのように支援ニーズに対応し、包括的な支援体制を構築しているかを深く理解しました。

### 1. 支援体制整備事業の取組

高松市では、国の重層的支援体制整備事業を柔軟かつ綿密に活用し、

高齢者や障がい者など多様な支援ニーズに対応する包括的な取組を展開しています。特に注目すべきは、地域ごとの特性や住民の声を踏まえ、個別の課題に対応した支援を提供している点です。

支援プログラムは多岐にわたり、医療、介護、福祉、住まいづくりなどが総合的に考慮されています。地域住民と連携した相談体制が整備され、専門職と市民が協働して支援プランを策定することで、個々のニーズに最適なサービスを提供できている印象を受けました。

## 2. 地域連携と包括的なアプローチ

高松市の成功の一因は、地域社会全体での連携が強化されていることです。市民団体やボランティア、地元企業などが、支援体制整備に積極的に参画し、地域資源を最大限に活かしています。地域密着型のアプローチが、市民の安心・安全な生活を支えています。

包括的な支援体制の構築においては、市の行政としても柔軟性と効率性が兼ね備わっている印象を受けました。行政としてのリーダーシップがありながらも、市民参加を大切にし、地域社会全体での協働が進んでいることが感じられました。

### ○課題と今後の展望

一方で、高松市も課題に直面しています。特に、高齢化が進む中、介護や医療の専門職の確保や労働環境の整備が課題となっています。これらの課題にも迅速に対応し、地域社会全体での支援ネットワークを一層強化していく必要があります。



## ○まとめ

高松市の視察を通じて、国の支援事業を活用した包括的な支援体制整備の成功事例と課題に触れ、本市においても市民との協働を強化し、地域に根ざした支援体制を築いていく必要性を感じました。引き続き、本市としても市民の声を大切に、柔軟なアプローチで支援体制を整え、地域社会全体で安心して過ごせる環境を築いていく決意です。



## ■福岡県福岡市

### 「児童虐待未然防止への体制づくりについて」

福岡県福岡市を訪れ、児童虐待未然防止に向けた体制づくりに焦点を当てました。この視察を通じて、福岡市が児童虐待防止にどのような取組を行っているか、そしてそれが地域社会に与える影響について深く理解しました。

## ○福岡市の取組

福岡市では、児童虐待の未然防止に向け、積極的かつ包括的な取組が展開されています。まず、市内の保育園や学校、医療機関、地域の団体との緊密なネットワークが築かれ、情報共有が進んでいます。これにより、児童虐待の早期発見や支援ニーズへの素早い対応が可能となっています。

また、福岡市では専門職やボランティアの養成を重点的に行い、地域のリーダーシップを強化しています。児童福祉における専門的な知識を持つ者たちが、地域で児童虐待の兆候に敏感に対応し、危機的状況にある子どもたちへの適切なサポートが行われている印象を受けました。

## ○支援体制の強化と地域への浸透

視察を通じて明らかになったのは、福岡市が積極的に地域社会全体での協力を呼びかけ、児童虐待防止に向けた支援体制を強化している点です。地域の住民が児童福祉に対する理解を深め、危機に瀕した子どもたちを支えるための仕組みが地域に浸透していると感じました。

一方で、福岡市も課題に直面しています。特に、人手不足や予算の制約が支援体制の充実に影響を与えているとの指摘がありました。これらの課題に対しても、本市が学びながら柔軟に対応し、地域における支援体制の向上を図ることが求められます。



## ○まとめ

児童虐待未然防止の視察を通じて、福岡市が地域社会全体での連携を強化し、専門的な知識を有するリーダーシップを養成することで、児童虐待への対応を進めていることが明らかとなりました。本市としても、地域の特性や課題に合わせた支援体制整備を進め、市民と協力して子どもたちが安心して成長できる環境を築くための努力が不可欠です。引き続き、地域社会と連携し、市民の安全と健やかな成長を守るために尽力してまいります。



## ■全体を通して

本市議会議員として高槻市、高松市、そして福岡市への所管事務調査の一環で訪問する貴重な機会を得たことは極めて有意義な体験でした。この度の訪問では各市の取組を直接目の当たりにし、学ぶことが多く、肌で感じることができました。

この学びをもとに、今後、一人でも多くの市民の生活改善につながるような提言・改善策の推進につなげていく所存であります。各都市との接触は、それぞれの問題解決に対する取組の本質を思い描く助けになりました。これからも、より良い本市を創り上げるため、全力を尽くします。